共助

地域を守る共助の取り組み

大規模な災害においては「自助」「共助」の連携こそが、被害の拡大を防ぎ、早期の復旧・復興につながる鍵です。特に自主防災組織は地域防災の要であり、発災直後から地域を守る中心となって、個人や家庭と行政をつなぐ役割も担います。ここでは、地域の特色ある防災訓練をご紹介します。

マンション対策と中学生・高校生の協力　シャルマンコーポ町内会（加茂川町）

シャルマンコーポは、平成８年完成の12階建てのマンションで、現在約200世帯が居住しています。マンションでは、エレベータや給水など基本的な設備を電気に頼っています。

そこで、７月20日㈰に実施した防災訓練では、電気が復旧するまでの間のライフラインの確保やけが人の搬送訓練を主に行いました。

また、「ジュニアレスキュー隊」を創設しました。

階段での訓練

親が働き盛りの核家族世帯が多いマンションでは、平日昼間に災害が起こった際には、親が仕事に出ている家庭が多いと思われます。そこで、中学生や高校生にも危険のない範囲で協力してもらいたいというねらいから、今年になってマンション内に住む約20人の中高生に協力を得て、「ジュニアレスキュー隊」を創設しました。防災訓練では、安否確認、水や物資の搬送作業などに協力してもらいました。

中学生も協力

マンホールトイレの設置訓練　南小学校避難所運営訓練

南小学校避難所を運営する自主防災組織が主催で、７月27日㈰に同校で自主防災組織の役員56人と学校長、避難所の担当職員である現地配備員などが参加し、避難所開設訓練が実施されました。

体育館内では避難所開設の受け付けと区画人数の確認を行いました。決められた区画内では、大人８人が横になったらぎゅうぎゅうの状態でした。

グラウンドでは、平成25年度に新設したマンホールトイレの設置訓練を行いました。車椅子（いす）も入る大きなテントと一人用のテントがあります。

１区画に何人寝られるかの演習

マンホールトイレ（左）と組み立て作業の様子（右）

町内会（避難者）主体の避難所運営訓練　北上小学校避難所運営訓練

今年の防災訓練では、初の試みとして各町内の自主防災組織のリーダーだけではなく、町内会の住民も参加した訓練を実施しました。徳倉第５、徳倉第６、萩、エンゼルハイム芙蓉台の４町内会が、各町内から北上小まで避難したり、避難所運営マニュアルに基づいて、各町内の住民が居住スペースをテープで仕切る作業などをしました。その後、住民を体育館に避難させ各世帯ごとに避難者カードを記載し集計する訓練が行なわれました。参加者は、各町内ごとに生活ルールや役割分担を話し合いました。

避難世帯カードの集計作業

体育館内でカラーテープを貼って区画作り作業

自主防災組織活動に参加しよう

東日本大震災を体験した自主防災組織の多くが「防災訓練が必要」、「日ごろのコミュニティ活動が大事」とアドバイスをしています。皆さんがお住まいの自治（町内）会や避難所単位での防災訓練に、日ごろから積極的に参加しましょう。

①自主防災組織の中で自分での役割を確認しましょう。
②防災訓練は、安否確認、初期消火などとともに地域の実情に沿った訓練を実施しましょう（工夫した訓練の方法は、危機管理課へお問い合わせください）
③多くの人に防災資機材の種類や使用方法を周知しましょう。

問合せ　危機管理課（☎983－2650）

「自らの命は自ら守る！」「自らの地域は皆で守る！」

平成25年に静岡県が公表した第４次地震被害想定によると、市内の最大震度は６強となっております。阪神淡路大震災のときには、亡くなられた方の８割が発災後15分以内の建物の倒壊等によるものです。また、救出・救助に当たった人の６割が近所の方でありました。過去の大規模災害の教訓では災害時に市でできることには限度があるため、「自らの命は自ら守る！」、「自らの地域は皆で守る！」ということが非常に重要になってきます。そのためには、建物の耐震化、家具の転倒防止の実施が重要であります。岩手県山田町の沼崎前町長が「日頃、防災訓練に参加していた人は多く助かっていた。」と言っておりました。日頃から積極的に防災訓練などの自主防災活動に参加し、災害に強いコミュニティをご近所みんなでつくり上げていくことが重要です。高齢の方や障がいのある方、避難支援を必要とする方の名簿をまもなく各自主防災組織に配布しますので、この方たちを地域で助け合う体制について皆で考え、「自らの地域は皆で守る！」という心構えを築いていただきたいと思います。そして、大地震がきても三島市からは一人も被害者を出さないという意気込みを持って、今後も市民の皆様と更なる防災対策に取り組んでいきたいと考えております。

三島市長　豊岡　武士